

厚生労働大臣
塩崎 恭久 殿

歯科診療報酬プラス改定、保険で良い歯科医療の実現を求める要請書

お口の健康は、全身の健康に深く関係しています。歯を治療することによって糖尿病、腎臓病、心筋梗塞、さらには認知症などの改善につながっていることも明らかになってきています。

しかし、日本社会では格差と貧困が拡大し、口腔の健康格差も生じています。さらに、子どもから高齢者まで口腔の健康悪化と崩壊ともいえる深刻な事態が新たに広がっています。

全国保険医団体連合会の調査では、経済的理由で歯科治療を中断する人を6割の医療機関で経験しています。大阪や宮城、長野、三重、岩手の調査では、学校歯科健診で受診とされた児童生徒のうち、小学校で約半数、中学校で3割程度しか受診していないことが報告されています。また、厚労省の調査でも要介護者の約9割が何らかの歯科治療が必要であるにもかかわらず、実際に歯科受診をしたのは3割弱という調査結果もあります。

厳しい労働環境や格差と貧困の広がり、経済的理由での未受診、歯科治療の早期受診や治療の継続を妨げています。加えて歯科では日常的に普及した治療でも保険のきかない治療があるために、お金の面での不安がさらに受診を妨げる要因になっています。

また、長年にわたる国による歯科医療費の抑制政策のもと、歯科医院の経営は厳しく、入れ歯や詰め物を提供する歯科技工士にもそのしわ寄せがきています。

いつでも、どこでも、だれもがお金の心配をせず、「保険で良い歯科医療」を実現することは、患者、国民、歯科医療従事者の共通の願いです。

以上の趣旨をふまえ、私たちは国会請願署名に取り組み、現在23万筆を集約しました。

つきましては、保険で良い歯科医療の実現のため、来年度の歯科診療報酬のプラス改定を求めるとともに、以下の事項の実現のためご尽力いただくよう要望します。

○お金の心配をせず、歯科医療が受けられるよう、窓口負担割合を引き下げてください。

○保険のきく歯科治療を増やしてください。

○国の歯科医療にかかる予算をふやしてください。

以上、宜しく願いいたします。

12月3日

「保険で良い歯科医療を」全国連絡会